平成 31 年度使用高等学校
（第 1 部）
教科書編集趣意書

芸術（書道Ⅰ）編

目 次

ページ

006　教図 書 Ⅰ 1

発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教　科　書　名
6 教図	書Ⅰ　302	書 Ⅰ 著作者　關　正人　澤田雅弘　土橋靖子 辻元大雲　名児耶明　他11名

●編集の基本方針

学習指導要領に示された「目標」「内容」及び「内容の取り扱い」に基づき，中学校書写との連携を考え，高校生が書に興味を持って意欲的に学習できるよう次の点に配慮して編集しました。

書の魅力を伝えるのに最適な判型を工夫

書に対する感性を磨き，臨書や鑑賞の力を養うために，現行本の判型（297×182 ㎜）をさらに見直すところから編集作業を始めました。書の美を理解するための根幹となる古典図版を美しく見せるためには，紙面に適度な余白とゆとりを持たせることが必要です。そこで，現行本の縦 A4×横 B5 寸法の横幅を 1 ㎝だけのばして，図版以外の部分にゆとりを持たせ，原寸大の拓本や肉筆，紙の繊維まで見える拡大図版の迫力を存分に味わえるよう配慮しました。

●編集上特に配慮した事項

①中学校書写との関連に配慮した導入

導入領域では，まず中学校書写の学習内容を確認することを第一としました。特に，書写と書道の共通点と相違点については，概念的に理解するのが高校生にとって難しいため，イラストでその内容を表現し，芸術科書道の魅力が伝わるよう工夫しました。この領域で書道の学習内容を概観し，漢字の書の学習，仮名の書の学習，漢字仮名交じりの書の学習へスムーズに入っていけるような構成としました。

②漢字は五書体すべてを網羅し，幅広い古典を掲載

「漢字の書」領域は，基本的でオーソドックスな古典を豊富に掲載しました。古典の幅を広げることは，生徒の興味・関心に応えるためであり，また，書道の基礎を養うのに大切な臨書学習を充実させることがねらいでもあります。古典には，釈文・訓読・大意までを示し，解説には極力ふりがなを付けることで，自学自習に対応するとともに，技法面だけではなく知識面の学習の充実も図るよう配慮しました。また，学校の実態に合わせ，篆刻・刻字についても充実した学習ができるよう配慮しています。「仮名の書」領域では，散らし書きの古筆についても取り上げ，日本の伝統文化についてより一層理解を深めることができるよう配慮しました。

③思い・ことば・書の関係を考え，意図を持って表現する「漢字仮名交じりの書」の学習

導入領域で確認した，中学校書写の学習内容である「漢字と仮名の調和」を受け，さらに書の学習の基礎・基本となる「漢字の書」・「仮名の書」の内容を踏まえ，新たな表現を求める領域として「漢字仮名交じりの書」領域を設定しました。学習の柱は，思いをことばにし，書で表現することです。

思いとことばとの格闘，用具・用材と表現との格闘など，生徒が主体的に学習できるよう配慮しました。また，書が現代のくらしの中で生きているものであること，そして，これからも生かしていくべきものでもあることが実感できるよう，「くらしに生きる書」を設けました。

④各領域の最後に「くらしの中の書」を設定

各領域の最後のページに，その領域で学習したことをくらしに生かす目的で，「くらしの中の書」を設けました。導入領域では，硬筆によるはがきの宛名書き，漢字領域では，刻字の表札制作，仮名領域では年賀状，漢字仮名交じりの書領域では，表書きやメッセージカードを書くなど，生活のさまざまな場面で書を生かせる題材を選定しました。

⑤鑑賞学習への配慮

書の学習では，表現と鑑賞は表裏一体であると考えられることが多いため，掲載する全ての古典図版が，臨書や鑑賞の対象となります。ただ，学校によっては，表現の学習を行う時間を確保するのが難しい場合があるため，積極的に鑑賞学習を取り入れることで，書に触れる機会をできるだけ増やそうという取組みがなされています。そこで本書では，巻末に「みる・くらべる・はなす」というページを設けることで，知識理解に偏重した鑑賞学習ではなく，作品を純粋に「みる」行為から始める学習を展開し，鑑賞の基礎を養うことができるよう配慮しました。美術館・博物館へ出かけることが難しい場合も考えられるため，学校の教室で充実した鑑賞学習ができるよう，作者や作品の書かれた背景について紹介した資料，作品の特徴を理解するために有益な書論などを交え，楽しく学べる工夫をしました。

⑥コラム　書と人，参考にしよう・覚えよう・話し合おう・やってみよう

是非とも知っておきたい「書聖王羲之」，「三筆・三跡」，「高村光太郎」について，コラム「書と人」で取り上げました。また，学習を進める中で，生徒が興味・関心を抱きやすい内容に対し，知識を深めることができる資料を「参考にしよう」・「やってみよう」として盛り込みました。また，学習内容の確実な定着や，問題解決能力育成のため，随所に「覚えよう」・「話し合おう」を設けました。

⑦イラストの活用

堅苦しいという印象の強い書の学習に，少しでも興味・関心を抱き，積極的に書の魅力を理解しようとする態度を育成するために，筆・墨・硯・紙をキャラクター化したイラストや，高校生をモチーフにした男の子・女の子のイラストを随所に登場させました。

⑧書道史が概観できる年表資料と，古典教材の地理的理解を深めるカラー地図

解説による個々の古典の理解に加え，書道史上での古典の位置付けや，日本と中国の書文化の交流史を概観できるような年表を巻末に付しました。また，地図には，古典の現在の収蔵・保管場所や，現存しないものについてはその関連の場所を，掲載ページを添えて引き出し線で見やすく表示し，本文ページとの関連づけに配慮しました。さらに，現地の写真も織りまぜ，臨場感を味わえるよう工夫しました。